

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**上鳥羽マンション新築工事**

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>									<b>2.8</b>
<b>1.1 騒音</b>									
1 室内騒音レベル						3.0	0.15	2.8	1.00
2 設備騒音対策						3.0	1.00	3.0	0.50
<b>1.2 遮音</b>									
1 開口部遮音性能						3.0	0.50	2.6	0.50
2 界壁遮音性能						3.0	1.00	3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.30
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						1.0	-	2.0	0.20
1.3 吸音						1.0	-	2.0	0.20
3.0						3.0	-	1.0	-
<b>2 温熱環境</b>									<b>2.8</b>
<b>2.1 室温制御</b>									
1 室温						2.6	0.35	3.0	1.00
2 負荷変動・追従制御性						3.0	0.50	3.0	0.50
3 外皮性能						3.0	0.63	3.0	0.63
4 ゾーン別制御性						3.0	0.38	3.0	0.38
5 温度・湿度制御						3.0	-	-	-
6 個別制御						-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-
8 監視システム						-	-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>									
1.0						1.0	0.20	3.0	0.20
<b>2.3 空調方式</b>									
3.0						3.0	0.30	3.0	0.30
<b>3 光・視環境</b>									<b>2.7</b>
<b>3.1 昼光利用</b>									
1 昼光率				●自然	A(全国版準用)	3.0	0.25	2.7	1.00
2 方位別開口						3.0	0.30	2.0	0.30
3 昼光利用設備				●自然	B(推奨内容)	3.0	0.60	1.0	0.50
<b>3.2 グレア対策</b>									
1 照明器具のグレア						3.0	0.40	3.0	0.20
2 昼光制御				●自然	B(推奨内容)	3.0	0.30	3.0	0.30
3 映り込み対策						3.0	0.30	3.0	0.30
<b>3.3 照度</b>									
3.0						3.0	0.15	3.0	0.15
<b>3.4 照明制御</b>									
3.0						3.0	0.25	3.0	0.25
<b>4 空気質環境</b>									<b>3.0</b>
<b>4.1 発生源対策</b>									
1 化学汚染物質						3.0	0.25	3.0	1.00
2 アスベスト対策						3.0	0.60	3.0	0.63
3 ダニ・カビ等						-	-	-	-
4 レジオネラ対策						-	-	-	-
<b>4.2 換気</b>									
1 換気量						3.0	0.40	3.0	0.38
2 自然換気性能				●自然	A(全国版準用)	3.0	0.50	3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮						3.0	-	3.0	0.33
4 給気計画						3.0	0.50	3.0	0.33
<b>4.3 運用管理</b>									
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	-	-	-
2 喫煙の制御						3.0	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>2.5</b>
<b>1 機能性</b>									<b>2.4</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>									
1 広さ・収納性						2.2	0.40	2.6	1.00
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.40	3.0	0.60
3 バリアフリー計画				●大切	D(独自基準)	3.0	-	3.0	-
<b>1.2 心理性・快適性</b>									
1 広さ感・景観				●とも	C(独自加点)	3.0	1.00	3.0	1.00
2 リフレッシュスペース						3.0	0.30	2.0	0.40
3 内装計画				●とも	D(独自基準)	1.0	-	3.0	0.50
<b>1.3 維持管理</b>									
1 維持管理に配慮した設計						2.5	0.30	-	-
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>2.7</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>									
1 耐震性						2.7	0.31	-	-
2 免震・制振性能						3.0	0.48	-	-
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>									
1 躯体材料の耐用年数				●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.33	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.23	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.09	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.08	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.15	-	-
						3.0	0.23	-	-

2.4 信頼性				1.8	0.19	-	-	
1	空調・換気設備			1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20	-	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.1	1.00	2.3
3.1 空間のゆとり								
1	階高のゆとり			3.0	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	3.0	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	2.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース			3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加算) D(独自基準)	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮, 快適性の向上		●とも, 自然	A'(全国版準用)	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.8
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)	2.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				3.2	0.40	-	-	3.2
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				#VALUE!				
集合住宅の評価				3.2				
4 効率的運用								
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護				2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)	3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.22	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68	-	-	
1 消火剤				2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	-	
3 冷媒				3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮				3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮				1.8	0.33	-	-	1.8
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	0.33	-	-	
2 振動				3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害, 日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制								
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)	3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる